



第1号
2020年9月発行
西宮市立西宮東高等学校
図書委員会 広報部

特集 涼しくなる本

「化物語」 著 西尾維新

高校生の阿良々木暦はある日、空から落ちてきた少女、戦場ヶ原ひたぎを受け止める。しかし、戦場ヶ原ひたぎには重さといえるのものがほとんどなかった。

これは、怪異と呼ばれる不思議な存在と繰り広げられる物語である。

「バカの壁」 著 養老猛司

人は人生のどこかで理解することを諦め、バカであろうとする。「バカの壁」を持つという話から、「共通了解」と「個性」がもつ社会の矛盾、天才とは何かなど、著者である方の独特な考えをまとめた本で、おもしろく、読んでいるうちに、暑さが吹き飛ぶと思います。

「そして誰もいなくなった」 著 アガサ・クリスティー

孤島に招かれた十人の男女。その過去の犯罪を暴く声とともに、童謡の歌詞通りに彼らは一人ずつ殺されていく。犯人 UN オーエンは、いったい誰なのか。彼らが犯した犯罪の真実とは。著者アガサ・クリスティーの綿密な心理描写や、細かく張られた伏線、息をのむクライマックスなど、何度読んでも面白い、不朽の名作です。

「西の魔女が死んだ」 著 梨木香歩

主人公のまいは、祖母が危篤という連絡を聞き、不登校だった頃に祖母と一緒に生活していたころのことを思い出す。この物語は、その祖母と生活したころの話です。この話を読み終わったあと、とても感動しました。でも、どこか勇気をもらうことができ、新学期からも頑張ろうと思える作品になっているのでおすすめです。

「バッテリー」 著 あさのあつこ

岡山県に引っ越してきた原田巧はピッチャーとして素晴らしい才能を持つが、我を通す性格で周囲になじむことを苦手としていた。そのなか、永倉豪や仲間と出会い野球を通して、人間としても1人の選手としても成長していく物語です。

読み終わったあと、清々しい気持ちになれる作品ですので、是非時間のある方は手に取ってみてください。